

「プログラミング教育で障害児の個性を伸ばす」。遠州地域（静岡県西部）で障害児支援に奮闘するのが、放課後等デイサービスを手掛けるウエル恵明会（浜松市）の鈴木慎太郎社長（37）だ。1年前に母親から経営のバトンを引き継ぎ、子どもたちの強みを生かした教育を模索している。

鈴木さんが中学生のとき、母が介護施設の運営会社として同社を創業した。その姿や、後継者不足で次々と消える地元産業を見ながら、地域に役立つビジネスをしたいと考えた。「一刻も早く働きたい」と高校を中退し、高校卒業程度認定試験に合格。ソフトウェア販売会社を起業した。2011年から中国に留学した。北京語言大学で経済・貿易を学びつつ、日本の介護企業の中国進出やレアアース（希土類）調達に関わった。反日デモの真ただ中でも中国人と商売ができた。その経

地域の障害児にプログラミング教育

ウエル恵明会社長
鈴木 慎太郎さん



発想力生かし個性伸ばす

を次々と生み出した。鈴木さんは「勉強が苦手以自己肯定感の低い子が、完成した作品を楽しそうに説明する姿が印象的だった」と話す。

24年には障害の有無に関係なく受け入れる幼児向けプログラミング教室を始めた。現在、放課後デイを9施設、プログラミング教室を2施設運営し、保育施設などでもプログラミング教育を広げる。26年3月期の売上高は5・5億円と、10年間で2・6倍になった。

験から、物事は白か黒かの2択ではなく多面的だと捉える視点を得た。大学卒業後は経営コンサルタントとして東京都内での就職が決まっていた。だがウエル恵明会が新規施設の施工不良で経営が悪化しており、急きよ実家に呼び戻された。介護だけで立て直しは難しいと考えていた矢先に浜松信用金庫（現浜松いわた信用金庫、浜松市）から磐田市内の自治会施設で事業を始めないかと紹介を受けた。当時、周

障児の療育に携わる中で、豊かな発想力に驚かされた。じっとして文字を書くことが苦手な子どもが、絵を描く際は集中し自己を表現していた。折しも小学校では20年度からプログラミング教育が必修になった。簡単にアニメやゲームを作るプログラミング言語「Scratch（ビジュアルプログラミング言語）」を導入を決めた。子どもたちは個性を生かして独自のゲームやイラスト

「誰かが個性を武器にして歩める社会」の実現を目指している。

分断が進む世界で「誰もが個性を武器にして歩める社会」の実現を目指している。

（大野創一朗）